

収録・解説 酒井董美

語り手 宮倉玲子さん
(昭和6年生まれ)

平成12年12月収録

あらすじ

昔、鳥取に湖山長者と
いう金持ちがいました。
長者の家の田植えで
す。いつも世話になって
いる人たちが、集まって
きました。田植えが始ま
りました。

へあれやこれやで
この田もすんだ
どこのどなたも
ご苦労さん
ヤレ ご苦労さん
どこのどなたも
ご苦労さん

みんな歌をつたいなが
ら田植えをしておりまし
たが、長者の田んぼはた

湖山長者

(西伯郡南部町境)



イラスト・福本隆男

沈む太陽戻した田は池に

「今日のうちに植えら
れるかなあ」
お日さまは西の空に傾
ん、ずんと上の方に上が
り、日植えた田んぼに苗の緑

か進みません。
「今日のおうちに植えら
れるかなあ」

いてきました。長者はあ
って来るではありません
わてて奥の方から扇子を
持ってきて広げ、「太陽
さま、どうぞわたしの家
の田植えが終わるまで沈
びて田植えをしました。
まないでください」と何
回もお願いしました。
すると半分ぐらいしか
見えなかった太陽が、ず
なあ」と出てみると、昨

「バカな、そんなこと
があるもんか」そう言っ
て、長者は起きて見まし
た。戸を開けて、自分の
田んぼを見ると、昨日田
植えをした田んぼが一
面、池になっているでは
ありませんか。

解説

「長者さん、長者さん、
起きてください。昨日植
えた稲がありません」

語り手の住所が南部町
境なので西部の民話とし
たが、この伝説の舞台は
どなたもご承知の鳥取市
に広がる湖山池であり、
この伝説はあまりにも有
名である。この話はお父
上からお聞きになった
と、語り手の宮倉さんは
話しておられた。宮倉さ
んは長年教育職に従事さ
れていた方でもあり、現
在、ほつき民話の会のメ
ンバーでもあって、実に
見事な語りである。
どなたもじっくり味わ
っていただきたい。
(元鳥取短期大学教授)
(水曜日に掲載)

「こんなはずはない」
長者はあわてましたけれ
ども、昨日ゆっくり沈ん
でくれた太陽さんは、も
う東の方に昇ってしまし
た。

「わたしが悪かった。
もう沈もうとしている太
陽さんを、無理に呼び返
したから罰が当たったん
だ。ああ、やっぱり無理
なことをしてはいけない
ということだ。村のみな